

「農地中間管理機構」で地図情報を整備

—「水土里情報システム」の活用を東北農政局長へ要請—

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会(会長：及川正和岩手県土連会長)では10月7日に、佐々木康雄東北農政局長へ、「水土里情報システムの活用にかかる要請」を行った。

平成26年度概算要求の「農地中間管理機構(仮称)」の関連予算である「機構集積支援事業」において、農地基本台帳の電算化・地図化が予算化されたが、この地図化は、各県土連が補助事業で構築している「水土里情報システム」の整備目的のものであると考えられることから、本システムを積極的に活用して頂くよう要請した。

要請は、佐々木局長をはじめ、関係部課長が一堂に会して行われ、冒頭、岩手県土連の田山専務が要請書を読み上げた後、各県の専務からそれぞれの県の状況や活用事例などについて説明を行った。佐々木局長からは、「農地基本台帳の電算化については、農業委員会それぞれの対応がバラバラである。農地中間管理機構への活用については、水土里情報システムが既に開発・運用済であることを前提として、本省の農村振興局と経営局へ伝えることとしたい」とのコメントを頂いた。

今後、農地中間管理機構の制度が明らかになるのに合わせ、本システムの活用について国へ引き続き要請していくとともに、各県毎に農業委員会等に対しPRすることとしている。



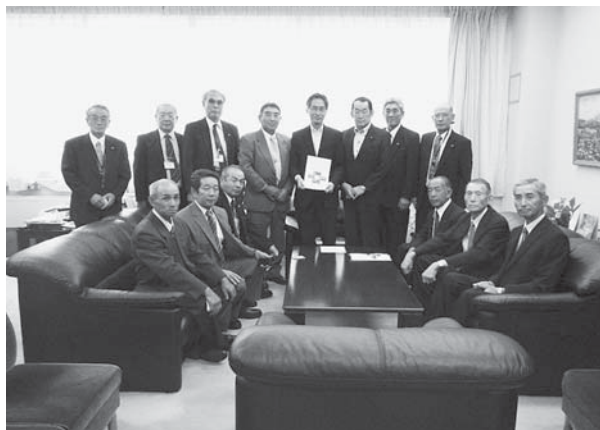
左から、伊藤(山形県土地連専務)、高橋(宮城) 佐々木農政局長、田山(岩手)、福澤(青森) 清野(秋田)、櫻田(福島)



意見交換の様子

本会山本支部が県選出国會議員と農林水産省に要請

9月6日、本会山本支部(田中長支部長)の会員13名が、本県選出国會議員と農林水産省へ“能代市・山本郡における農業農村整備事業の推進について”要請活動を行った。



實重農村振興局長(農林水産省)



財務金融委員長 金田衆議院議員



石井参議院議員



中泉参議院議員

TPPに反対し食料・農業・環境を守る 秋田県民集会

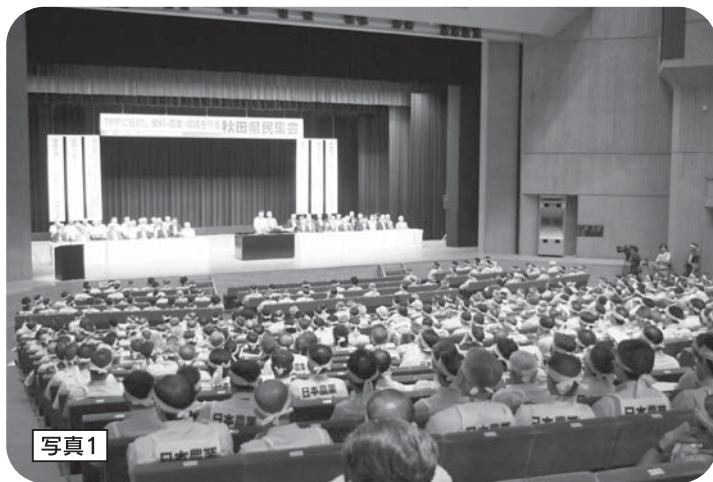


写真1



写真2



写真3



写真4

7月31日、秋田市文化会館において「TPPに反対し食料・農業・環境を守る秋田県民集会」が開催された。県内の農業系組織など22団体などが会場を埋め、1,200名もの参加者が集結(写真1)。元外交官の孫崎亨さんによる基調講演と要請集会が行われ、来賓には橋口副知事や本県選出の国会議員、県議会議員など。本会の高貝会長も、「TPP反対を目指し粘り強く運動を展開していく」と決意表明を行った(写真2)。その後、山王大通りにてデモ行進。参加者は、はちまき姿でプラカード・横断幕等を掲げ「TPP断固反対」を訴えた(写真3)。本会の役員たちも行進に参加し、決意を改たにしていた(写真4)。この活動が身を結び、秋田の農業が更なる飛躍を遂げることを期待したい。



大館市（被害箇所①）



大館市（被害箇所②）

平成25年度豪雨災害の復旧に向け 鹿角市・大館市の災害支援業務

12月まで災害査定用設計書を担当

平成25年8月9日に秋田県内において発生した大雨により各地に大きな被害が発生し、大館市、鹿角市、仙北市において災害救助法が適用されました。本会では、大館市及び鹿角市の要請を受け9月から関係職員の派遣を始めた。今後12月まで関係職員が現地入りし、災害復旧に向けた測量調査、設計などの支援業務を行う。

現在は、本会職員並びに本会OB、県内コンサルタントなどの協力を得て、8班体制で測量調査が進められ、農地を中心に、ため池、頭首工、揚水機場など農業用水利施設の被害状況を把握のうえ、今後順次行われる災害査定に向けて設計書の作成などを担当する。

9月末時点の被害状況は、大館市358箇所、鹿角市177地区となっているが、9月の台風被害による災害地区約100箇所程度が追加される見込みである。

被災箇所は、入り組んだ沢地の所も多数あるため、予想以上に現場状況の把握に時間を要しているが、今後は調査・設計・積算を進め、随時災害査定を受けることになっている。



鹿角市（被害箇所①）



鹿角市（被害箇所②）



写真1



写真2

21 創造運動 一ノ目潟クリーン・アップ



写真3

9月4日、男鹿市北浦一ノ目潟土地改良区が主催するクリーン・アップ活動が開催された。21創造運動の一環として平成14年度から取り組んでいる活動は、今年で10回目。一ノ目潟周辺にはほとんどゴミがなく、改良区や地域の人々によって普段から丁寧に管理されていることがわかった(写真1)。その後、同改良区が管理している隧道(水路トンネル)の改修工事の報告と、秋田地域振興局の舩谷農村整備課長から「年縞」の講話を受けた(写真2)。随道見学では、先人たちの足跡と現代の技術力の高さを感じることができた(写真3)。上流の1号トンネル・下流の2号トンネルとも掘削作業が終了し、完成は26年度になる。



豆知識 一ノ目潟

6～8万年前の火山活動に伴いできた湖。近くの二ノ目潟、三ノ目潟とともに「目潟火山群」を構成している。いずれの目潟もマグマの水蒸気爆発によって造られたマール湖で、東北地方でほかに例がない。2006年の調査で「年縞」の存在が確認され、翌年には国の天然記念物に指定された。「年縞」とは、湖底の堆積物が1年ごとに積み重なり縞模様を築くことで、今年の調査で一ノ目潟は国内最大の約60mに達していることが分かった。これは、過去5～6万年間に相当する堆積と考えられ、地震や噴火、気候変動に伴う植生変化などを正確に把握する手がかりとなることが期待される。